



bauhaus



imaginista

PROJECT PARTNERS



GOETHE
INSTITUT

b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar



bauhaus imaginista : Corresponding With

「文化圏を超えた交流

——20 世紀のインド・日本・ドイツにおける美術・デザイン教育をめぐって」

国内外のアーティスト、デザイナー、研究者によるプレゼンテーション、パフォーマンスとディスカッション

場所 : ゲーテ・インスティトゥート東京、ホール

日時 : 2018 年 8 月 5 日 9:00 – 17:30

お申込み (メール) : info-tokyo@goethe.de

ホームページ : www.goethe.de/tokyo

この国際的かつ学際的なシンポジウムは、京都国立近代美術館で開催される展覧会「バウハウスへの応答」で提示される様々な考えを、より明らかにしようと企画されました。その際、シンポジウム登壇者たちによる短い発表や議論に加え、アーティストによるプレゼンテーションやパフォーマンスさらに映像上映を、アーティストック・インターヴェンションとしてプログラムに組み込み、全体として実験的な枠組みを用意することにしました。

展覧会「バウハウスへの応答」は、バウハウスの教育方針に対し、ほぼ同時期ではあるものの異なる関係性を、築いたインドと日本——すなわちインドのシャンティニケタンに創設された美術学校カラ・ババナ (1919~現在) と日本で建築家・川喜田煉七郎が東京に設立した生活構成研究所 (のちの新建築工芸学院) (1931~36 年) ——についての議論を発展させることを目的としています。

シンポジウムへの参加は、第二次世界大戦前後 (1930 年代~1950 年代) からその後、現在に至るまでの日本とインドにおけるバウハウスの影響を、より一層明確に理解することに繋がるでしょう。シンポジウム登壇者たちは、理論的・歴史的研究に基づいた意見交換や、自らの経験や作品に関する考察、さらには芸術的プレゼンテーションやパフォーマンスという形で自らの実践を紹介するなど、様々な形で発表を行います。本シンポジウムは、バウハウス協会ベルリン・デッサウ・ヴァイマル、ゲーテ・インスティトゥート、世界文化の家が「バウハウス 100 周年」を記念して行う一連の展覧会・イベントの一環として、ゲーテ・インスティトゥート東京の主催により開催されます。

FUNDED BY



LOCAL PARTNER





bauhaus



imaginista

PROJECT PARTNERS



b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar



また 3 名のアーティスト——ルカ・フライ（ヴィジュアル・アート）、Kyoka（サウンド・アート）、白井剛（ダンス）——が、バウハウスのコンセプトや形式そして実践と自身の関わりを踏まえて、本イベントのためのオリジナル作品を制作し発表します。

本イベントのモデレーターは、美術史家・キュレーターのヘレナ・チャプコヴァーと建築家の坂牛卓が務めます。

bauhaus imaginista は、バウハウス協会ベルリン・デッサウ・ヴァイマル、ゲーテ・インスティテュート、世界文化の家による共同プロジェクトです。バウハウス設立 100 周年を記念するこの研究プロジェクトは、さまざまな展覧会、ワークショップ、シンポジウムを開催します。本共同プロジェクトは、ゲーテ・インスティテュートが持つ国際的視野のもとにさらなる充実を図り、世界文化の家で行われる「100 Years of Now in Berlin」プロジェクトにおいても、その重要な一端を担うことになります。

bauhaus imaginista は、ドイツ連邦首相府文化・メディア担当ドイツ連邦文化財団、ドイツ連邦外務省の助成金を受けて可能となりました。ドイツ国外からは、中国、ニューデリー、ラゴス、モスクワ、ニューヨーク、ラバト、サンパウロ、東京のゲーテ・インスティテュート、および *Le Cube – independent art room*（ラバト）ほか、さまざまな団体がパートナーとなっています。また、***bauhaus imaginista*** は、*China Design Museum / China Academy of Art*（杭州）、独立行政法人国立美術館 / 京都国立近代美術館、*Garage Museum of Contemporary Art*（モスクワ）、*SESC São Paulo* の協力により実現しました。

www.bauhaus-imaginista.org（ニュースレターをご希望の方はこちらから）

www.bauhaus100.de

#bauhausimaginista

#bauhaus100

FUNDED BY



LOCAL PARTNER





bauhaus



imaginista

PROJECT PARTNERS



GOETHE
INSTITUT

b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar



Haus der Kulturen der Welt

プログラム

8:30 開場

9:00 – 9:45 ごあいさつとプレゼンテーション

ごあいさつ：

ペーター・アンダース、ライナー・ハウスヴィルト、クラウディア・ベレン

京都で開催中の「バウハウスへの応答」展に関するプレゼンテーション：

マリオン・フォン・オステン、グラント・ワトソン（*bauhaus imaginista* アーティスティック・ディレクター／キュレーター）

9:45 - 10:45 汎アジア主義下の交流

アーティストとキュレーターが登壇者として、インドと日本におけるバウハウス教育の汎アジア主義的コンテキストについて議論します。この議論では、非ヨーロッパ文化圏におけるバウハウスへの応答と関連性に焦点をあてます。

登壇者：梅宮弘光、池田祐子、本橋仁、コージョ・エシュン、アンジャリカ・サーガー、パルタ・ミッター、ナターシャ・ギンワラ、アンシュマン・ダスグプタ

10:45 - 11:00 休憩

11:00 – 12:30 20世紀初めにおける日独間の応答

戦前の日本におけるバウハウス受容史を専門とする研究者たちが 5 分ほどの短いプレゼンテーションを行い、背景となるコンテキストを説明します。プレゼンテーションの後、バウハウスの理念と、その第二次世界大戦前後の日本のデザイン界への影響について、山脇巖・道子夫妻、川喜田煉七郎、水谷武彦の 4 名のデザイナーに着目して議論します。

発表者：梅宮弘光、金子宜正、高木稔子、山野てるひ、奥山健二

FUNDED BY



LOCAL PARTNER





bauhaus



imaginista

PROJECT PARTNERS



GOETHE
INSTITUT

b a u h a u s
k o o p e r a t i o n
berlin
dessau
weimar



【アーティストック・インターヴェンション：ルカ・フライ】

続いて、アーティストのルカ・フライが、バウハウスを主題にしたプレゼンテーションを行い、「バウハウスへの応答」展のために制作した作品を紹介します。

12:30 - 12:45 アーティストック・インターヴェンション：Kyoka

Kyoka によるサウンド・インスタレーション「Score × Bauhaus」

ハウスデザイン・制作：坂牛卓（建築家）、甲津多聞

12:45 - 14:00 昼休憩

14:00-15:30 日本におけるバウハウス——戦後の展開

午後のラウンドテーブルでは、政治情勢や社会が大きく変化した戦後の日本におけるバウハウス受容を取り上げ、午前中の議論を発展させます。発表者たちが、バウハウスの教育理念に直接触れた経験や、水谷武彦や桑沢洋子など本イベントが注目するデザイナーたちとの出会いについて話し、コメンテーターたちと意見交換を行います。

発表者：山野てるひ、奥山健二、奥村 鞞正

コメンテーター：梅宮弘光、金子宜正、八代克彦、青山眞、クラウディア・ペレン

【アーティストック・インターヴェンション：白井剛 14:45 - 15:00】

白井剛によるパフォーマンス「スプーンに聴く - 人間工学の反転 -」

途中、ダンサーの白井剛が、本イベントの特別委嘱により制作した、バウハウスから着想したダンス作品のパフォーマンスを行います。

15:45 - 17:00 新しいバウハウス像——ステレオタイプを超えて

最後のパネルディスカッションでは、最近の日本においてバウハウスの理念がどのような展開を遂げて

FUNDED BY



LOCAL PARTNER





bauhaus



imaginista

PROJECT PARTNERS



GOETHE
INSTITUT

b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar

HKW
Haus der Kulturen der Welt

いるかについて議論し、デザイナーや教育者が今日的課題とみなする変容やインスピレーションについて考えます。ここでは、スピリチュアルかつラディカル、さらにはクィアにいたる様々な考えを含んでいた初期バウハウス以降の多様な事例をたどり、機能的でシンプルであることを標榜した戦後アメリカにおけるバウハウス・スタイルとの比較を試みます。

発表者：青山眞、奥村 鞆正

コメンテーター：奥山健二、八代 克彦、ナターシャ・ギンワラ

17:00 – 17:30 オープン・ディスカッションとパフォーマンス

発表者とコメンテーターによる上での議論に続き、会場参加者を交えてのディスカッションを行います。最後に Kyoka と白井剛によるパフォーマンスを行います。

最終パフォーマンス——白井と Kyoka による即興

17:30 閉会

FUNDED BY



LOCAL PARTNER





PROJECT PARTNERS



b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar



登壇者 (50音順)

ペーター・アンダース (ゲーテ・インスティトゥート東京・所長)

青山 眞 (桑沢デザイン研究所・副所長)

梅宮弘光 (神戸大学大学院・教授、“bauhaus imaginista: Corresponding With”キュレトリアル・アドバイザー)

奥村鞆正 (アートディレクター、グラフィックデザイナー、女子美術大学・客員教授)

奥山健二 (都市デザイナー、一級建築士、名古屋市立大学・名誉教授)

池田祐子 (国立西洋美術館・主任研究員、“bauhaus imaginista: Corresponding With”キュレーター)

コージョ・エシユン (著述家、映像作家、オトリス・グループ、“bauhaus imaginista: Corresponding With”コミッション・アーティスト)

金子宜正 (高知大学・教授)

Kyoka (サウンド・アーティスト)

ナターシャ・ギンワラ (キュレーター、著述家)

アンジャリカ・サーガー (映像作家、オトリス・グループ、“bauhaus imaginista: Corresponding With”コミッション・アーティスト)

坂牛 卓 (建築家、東京理科大学・教授)

白井 剛 (振付家、演出家、ダンサー)

高木穂子 (タイポグラフィ、本の制作者/デザイナー、大学教員)

アンシュマン・ダスグプタ (キュレーター、美術史家、ヴィスバ・バラティ大学・准教授、“bauhaus imaginista: Corresponding With”キュレトリアル・リサーチャー)

ヘレナ・チャプコヴァー (美術史家、早稲田大学助教、“bauhaus imaginista: Corresponding With”キュレトリアル・リサーチャー)

マリオン・フォン・オステン (アーティスト、著述家、“bauhaus imaginista”アーティストック・ディレクター/キュレーター)

ルカ・フライ (ヴィジュアル・アーティスト、デンマーク王立美術院助教授、“bauhaus imaginista: Corresponding With”コミッション・アーティスト)

ライナー・ハウスヴィルト (ゲーテ・インスティトゥート・ミュンヘン、美術部長)

クラウディア・ペレン (パウハウス協会デッサウ 会長)

パルタ・ミッター (サセックス大学名誉教授、“bauhaus imaginista: Corresponding With”キュレトリアル・アドバイザー)

FUNDED BY



LOCAL PARTNER



bauhaus
b

imaginista
i

PROJECT PARTNERS



GOETHE
INSTITUT

b a u h a u s
kooperation
berlin
dessau
weimar

HKW
Haus der Kulturen der Welt

本橋仁（京都国立近代美術館 特定研究員、“bauhaus imaginista: Corresponding With”アシスタント・キュレーター）

八代 克彦（ものづくり大学 技能工芸部長・教授）

山野てるひ（京都女子大学教授）

グラント・ワトソン（美術研究、“bauhaus imaginista”アーティストック・ディレクター／キュレーター）

FUNDED BY



LOCAL PARTNER

100 jahre
bauhaus